

建設工業新聞 2019.9.6 (3)

全国展開へM&A ICT企業との連携も FCHD



福島社長

福山コンサルタントが中核事業会社のFCホールディングス（FCHD、福島宏治社長）は、建設コンサルタント部門の強化や新分野進出を見据え、M&A（企業合併・買収）を積極的に展開する。現在は主要拠点6カ所と事業場24カ所を置いているが未進出地域

がある。地元建設コンサルタント会社のM&Aにより空白地域を埋めていく。河川分野や地盤分野の建設コンサルタントや、人工知能（AI）といったICT（情報通信技術）企業との連携も推進。売上高増加につなげる。

福島社長が5日、東京都内で開いた2019年6月期の決算説明会で、今後の経営方針を明らかにした。7月からの3カ年を対象とする中期経営計画では、売上高を73億3500万円（19年6月期）から、22年6月期

に85億円まで伸ばす目標を掲げている。創業80周年となる29年6月期の目標売上高は130億円と設定している。福島社長は「M&Aで（売り上げを）加算していく。異業種とも共創してグループの発展を図ってきたい」と述べた。

事業拠点は近畿や中部、北陸などに未進出地域があり、M&Aにより「日本地図にある程度埋めていく」（福島社長）とした。河川分野や地盤分野は予算規模が大きいにもかかわらず十分に展開できていないた

め、こうした分野の強化に向けたM&Aも進める。ICT関係の強化も必要との認識で、福島社長は「AI分野との融合や、地図シミュレーション、ビッグデータの解析といった建設とは違う分野との連携で、商品価値を高める」と語った。福島社長は、九州北部地方での大雨被害を踏まえた応急復旧の検討にも言及。「災害の時に駆けつけて対応するという足をしっかりとつつ、新規の展開をやっていききたい」と述べた。